大阪教育大学での講義（教育コミュニティづくりと家庭教育支援）

平成２９年７月１４日

７月１４日（金）に大阪教育大学で大阪府の取組（教育コミュニティづくりと家庭教育支援）について講義をしました。大阪府の社会教育委員として府の施策にもご協力いただいている、教育学部教育協働学科の新崎先生（福祉教育）と山中先生が担当されている講座「教育協働概論Ⅰ」での講義でした。

教育協働学科は、2017 年４月開設された学科で、「豊かな教養に加え、教育への理解と専門能力を身に付け、学校や地域と協働して、新しい時代の教育活動を創生できる人を養成する」学科です。（HP より）	最初に、「大阪府の教育コミュニティづくり～学校と地域の協働～」について講義をしました。教育協働学科は、教員免許取得を卒業要件とはしていませんが、教育への関心の高い学生も多くいました。「コミュニティづくり」の講義に続き、府が作成した「親学習」の DVD を見ました。	「親学習」の DVD を見た後、実際に「親学習」を体験してもらいました。まず、最初にアイスブレイキング（「後出しじゃんけん」）で場の雰囲気を和らげてから、ワークショップの４つの約束「参加」「尊重」「守秘」「時間」について説明しました。「後出しじゃんけん」は中々の盛り上がりでした。
場の雰囲気も和らいだところで、いよいよワークショップへ。親学習教材「はなれる」を使って考えてみました。グループの中で教材の読み合わせから、個人で考え、ペアで意見交流をしました。学生たちは、講義を聞いている時とはちがい、とても楽しそうに話し合っていました。	「親」の立場で考えることは、学生にとっても初めての体験だったようで、グループの中で様々な意見が出ていました。それぞれが、自分の中学生の頃を思い出したり、自分の親のことなどを振り返ったり、また、自分が親だったら？といったことも考えながら話し合いを進めていました。	最後に、親学習のまとめと、「親学習」を含めた大阪府の家庭教育支援の取組について説明しました。当日は、４コマの授業で講義とワークショップを行いましたが、授業後のアンケートには、講義の感想や大阪府の取組に対する考えなど、一生懸命書かれたものがたくさんありました。

【受講者の感想】《一部抜粋》

〇今までは学生の立場として「外で悪いことをしたら学校に連絡される」というのは当たり前だと思っていたが、講師の方が「教育の全てを学校が担うことはできない」とおっしゃっていた通り、学校のみに矛先が向かうのはおかしいと感じた。確かに自分の場合を思い返してみると「地域との関係が希薄」というのは事実だと思う。家の周囲で友達以外の誰かと話す、なんて経験は皆無であり、親に「何かあったら使え」と言われて渡された連絡先のリストには市外、県外に住んでいる親戚の名前ばかりであった。「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があるが、学校で「知らない人にはついていかない」なんて教えられるご時世であり、また共働きの家庭も増えているので親経由で地域とつながりを持つのは難しい、このような状況の中で公的な組織が働きかけることによって信頼できる関係を築いていく、というのは素直に素敵なことだと思った。「子供が身近に接する大人は親を除けば教師だけ」なんて状態が当たり前になりつつあるが、この中で「だから教師、ひいては学校はしっかりしろ」ではなく「だから地域の人も巻き込んで関係を作っていく」という思考のプロセスは見習いたい。

〇今回の講義で教育コミュニティづくりについての話がありましたが、家庭科の授業の補助やお話会、見守り活動や稲刈り体験など紹介されていたものほとんど小学校の頃あったなと思い出していました。小学校の頃は何気なくそれらの授業を受けていましたが、これが地域と小学校をつなぐ役割だったんだと大学生になって気づきました。このような活動によって地域と学校がつながることで、地域の人が地域の子供たちに関心を持つようになったという話を聞いて、そういった地域の方の活動によって見守ってもらっていたんだなと改めて感じました。

〇今回の話は、学校教育と地域社会の連携についてがテーマでした。地域福祉と児童福祉についての話は前々から聞いたことがあり、それらの複合形ということで、今回は特に興味深かったです。私が一番印象に残ったのは、地域の人が授業などに関わることで、児童生徒への関心が深まり、その結果いじめを防げたということでした。いじめは教室や学校でおこるものというイメージがあったので、そのようなことは考えたことがなく、斬新に感じました。地域の人が学校に関わることで、ただ単に学校だけや地域の人だけに利益があるのではなく、地域での子どもたちにも変化が現れるのはよいことだと思いました。

〇今日の授業で最も印象に残ったのは親学習についてです。先日の社会福祉の授業でも感じましたが、私自身妊娠・出産・子育てについて知らないことが大変多く、私と同様に他学生、さらには社会の若い世代の人たちもそれらについて分からないことや悩んでいることがたくさんあるのではないかと感じました。そういったことが起こってしまっている原因として、地域の人々とのかかわりが少なくなってしまったとか、今の若い世代の親が子どもたちにしっかりと伝えきれていないのではないかなど様々な原因が考えられますが、それについては今回は触れません。妊娠や出産、子育てなどの問題はとてもデリケートな問題だと私は思います。「自分が間違っていたらどうしよう」とか「相談するのが恥ずかしい」などのように感じ、知識が不足したまま、また、悩みを抱えたままの状態の人がたくさんいて、そしてその中に今現在子育てをしている人たちも含まれているのではないかと思います。そういった状況がおそらく根底にあるために、最近ニュースでよく見かける児童虐待などがおこってしまっているのだと思います。それを解決するためにといったら少し違うかもしれませんが、解決することにつながるであろう親学習にとても興味を持ちました。

〇今日の話で、親学習という言葉を初めて聞きました。子供や生徒達に対しては十分に学校で先生から指導されたり、親から様々なことを学びます。しかし、親は子育てについてのことについては知識があまりないまま子育てをします。子育てのベテランである人たちに聞く機会が増えることは良いと思いました。家庭内暴力やネグレクトなど親が子にたいして虐待をする理由は親が子育ての仕方が分からず、誰にも聞くことが出来ないということも理由のひとつではないのかと考えました。自分がこの授業を通していつも思うことは日頃の生活に生きづらさを抱えている人に対して手を差し伸べてくれる人や機関はあるにも関わらず、自分も含めて多くの人たちが知らないということが非常に残念だなと思います。実際、親学習について自分は言葉さえも知らなかったし、虐待も多いです。情報を知ってもらうには宣伝が必要だと前の授業などで何回も述べましたが、自分個人としても何かアクションを起こすことも大事だなと考えました。

〇親学習という単語は初めて聞きました。人間初めてすることって不安ですよね。先輩に聞いたりしたいですよね。でも、こんなこと聞くのってどうなんだろう、など考えてしまってなかなか口に出せないことってあります。友達にも言えないこともたくさんあります。人間関係は複雑で難しいですね。でもどうしても不安な時はやはり誰かに相談したくなるものだと思います。そこで親学習ですよね。子育てはおそらく、数学のように答えがひとつあるというものではないでしょう。ひとりひとり問題と向き合っていると思います。家族には言えない子育てに対する悩みでも、同じ立場の人になら話せるかもしれません。そういうところが特にいい取り組みだと思いました。また、親学習でもつながりができますね。いわゆる「ママ友」ができる可能性ももちろんあります。